

e&e REPORT

No.108

発行日 2010年9月30日
 川崎市中原区中ノ坪223-4-515
 電話/FAX 044-434-7291
 メール miyamoto@d03.itscom.net

E&Eレポートは、企業・国・海外の省エネや環境情報を、少しでも皆様にお届けしたいという思いから、毎月発行しているニュースレターです。地球温暖化防止にお役立て頂ければ幸いです。

ToPic 企業動向

●日本エリクソンが家電の消費電力をスマートフォンで管理するシステムを開発。

コンセントに差し込む家電のプラグ部分にセンサーを取り付け、消費電力を測定する。家庭内に設置した「ホームターミナル」がZigBeeで通信し、消費電力のデータを集約してサーバーなどに送信する。データはグラフ化され、契約者のスマートフォンに送られる。画面の操作により、ある電力系統だけの停止や、電力需要が一定水準を超えた場合、エアコンの設定温度を自動的にあげたり制御もできる。米国では無線LANを用い家電の使用電力をコントロールする次世代送電網の実用化が進んでいる。「日経産業新聞」

☞ 宮本一言メモ **本当にこのようなサービスが普及するのだろうか？**

●JX日鉱日石エネルギーは、マンション用別太陽光発電を始めると発表。

新たに開発したパワーコンディショナを用いることで、マンション各戸毎の太陽光発電を可能とした。同マンション屋上に660枚の太陽光パネルを敷き、各戸に出力1.2キロワット分を割り当てるもので、各家庭では、戸建ユーザーと同様に東京電力との直接契約にて余剰電力の売電が可能となり、節約分のメリットを享受できる。

試算では、太陽光発電システムがない場合と比べ、電気料金が月当たり約4,000円程度安くなる。また、各戸のリビングに発電量やCO2削減量が一目で分かるモニターを設置することで、居住者の省エネ意識を高めることが期待される。「ジャパン マーケット」

☞ 宮本一言メモ **マンションでの太陽光発電は屋上の有効活用になる。**

●岩崎電気が配光を強化し、寿命を6万時間に延ばしたLED道路灯を発売

新しいきょう体は、ミラー設計と照射角度設定の技術を駆使し、配光部の両側面と、天井面の前や奥でLEDの角度を変えて配置。側面からの光で遠くまで照らし、天井面からの光で広がりを持たせた。きょう体の内側にリブを設け、表面積を増やして放熱性を高めた。これによって、LEDと電源の設計寿命を6万時間まで延ばし、メンテナンスコストを削減する。水銀灯400W相当の明るさの「400シリーズ」、300W相当の「300シリーズ」、250W相当の「250シリーズ」で計14形式をそろえた。

既設のポール(挿入径は直径60.5mm×120mm)に取り付け可能で、灯具本体だけリニューアルできる。ポールトップタイプとアームタイプに対応する。価格はオープンで、従来の水銀灯の3倍程度になる見込み。「ケンブラッツ」

☞ 宮本一言メモ **屋外用で寿命6時間達成はずい。**

●パナ電工、エネ使用量計測と簡易診断セットを月額3万円で提供

省エネ対策の立案にはエネ使用量の詳細な計測が欠かせないが、専用機器の導入などで高額な初期費用がネックになる。このため、同社は半年など短期の調査を念頭に定額制サービスを提供し、事業所の省エネ可視化にかかるコスト抑制を支援する。

新サービスは電力に加えてガス、水道の使用量を計16カ所まで測定し、消費量の推移が分かるグラフと簡易診断報告書をセットで提供する。契約期間は6～24カ月。オフィスビルのテナントやチェーン店舗などに提案する。

同社の現在の商品・サービスで見ると、顧客が計測機器を購入した場合、工事費込みで約60万円かかるほか、通信・サービス利用料などで月9000円が必要。「日刊工業新聞」

☞ 宮本一言メモ **小規模店舗や建物では、常時連続計測は必要ない。工事費込みで短期レンタルはOK？**

●ユニ・チャーム、日本初の国内クレジット制度を活用したカーボンオフセットを実施。

ベビー用の紙オムツを対象に1～2月にカーボンオフセットキャンペーンとして販売した「CO2排出権付ベビー用紙おむつ」で、「国内クレジット制度」を使ってカーボンオフセットを実施した。国内13事業所のバイオマスによるCO2排出量削減事業によって約2300tのCO2をオフセットした。同キャンペーンでは、期間内の紙オムツ販売量に応じて1パックにつきCO2を1kgオフセットする排出権を購入。

過去の1、2回目のキャンペーンは、海外で排出削減されるCO2を対象にしたが、今回の3回目は国内の環境改善を目的に、国内でのCO2排出削減に貢献することにした。1～3回でオフセットしたCO2の合計は、3回目の2300tを加え、杉の木約70万本が1年間に吸収する量にあたる約1万tに達した。「ECO JAPAN」

☞ 宮本一言メモ **CO2の単価はいくらか。**

●BSIジャパン 大日本スクリーンに世界初の認証。ISO50001の普及促進を図る。

来年発行される予定の新国際規格「ISO50001」(エネルギーマネジメントシステム)の発行に先駆けて、このほど世界初となるISO50001の国際規格案(DIS)と、日本初となる「BS EN16001」(EUのエネルギーマネジメントシステム)の認証授与を大日本スクリーン製造に対して実施。

大日本スクリーン製造は他社に先駆けて同認証取得への取り組みを進めた。認証取得の目的を(1)部門ごとの詳細で正確なエネルギー使用量を把握し管理することで、どの部門のどの行程でエネルギーを大量に使用しているかを発見する(2)将来CO2排出量取引に参加するために、自社のCO2排出量を正確に把握できる体制を作る—ことなどとしている。エネルギーマネジメントシステム構築に向け、総務や設備関連の部門に製造部門や関連会社社員も加わったエネルギー委員会を設置し、社内のエネルギー使用全般に関する方向性の検討を行ってきた。「環境新聞」

☞ 宮本一言メモ **ISO14001の二の舞にならないように。**

ToPic 国・地方自治体動向

●環境省、排出量取引で3案提示へ 産業界配慮の方式も。

最大の焦点だった企業に排出枠を割り当てる方法については、3案を提示することにした。同省はこれまで総量方式導入を主張していたが、一部産業界に配慮して、3案のうち2案に、産業界が受け入れやすい原単位方式を盛り込んだ。

制度の対象になるのは、電力会社やメーカーなど温室効果ガスを大量に排出している企業で、2013年度から実施する。規制を嫌う企業の海外移転を防ぐため、鉄鋼会社など厳しい国際競争にさらされている企業や、排出量の多い企業には排出枠の優遇を検討。エコカーや省エネ家電など、排出量削減に貢献する製品をつくる企業への優遇策も考える。

今回の案のうち、一つは電力会社だけに原単位方式を導入し、そのほかの企業は総量方式にして、業界ごとの基準や過去の排出実績に基づいて国が排出枠を割り当てる方式。

もう一つの案は、電力会社も含めたすべての対象企業に原単位方式を導入する案。三つ目は対象企業すべての排出量を総量方式で規制し、足りない排出枠は公開入札で買わせる案。排出量取引制度の基本形だ。 「Asahi.com」

📌 宮本一言メモ **まず、はじめることが大切。走りながら改良していくのが良い。**

●広島市、市民参加の排出量取引を試行。

参加者の募集をするのは広島市の同じ場所に1年以上在住している1000世帯。受付は先着順。電気と都市ガスが対象で、今年度は11月と12月分の使用量を前年同月に比べてどれだけ削減したかを検針票で確認して支給する。

市は削減分のCO2を1kgあたり5円で買い取り、市内の企業に販売する。市は参加者に削減量に応じた金額を現金振り込みで支給する。自治体が市民のCO2削減に対して現金を支給する制度は全国でも珍しいという。 「日本経済新聞」

📌 宮本一言メモ **家庭のCO2削減は、何らかのインセンティブが必要。**

●東京都と埼玉県はCO2排出量取引で連携協定。

現在の制度ではそれぞれの都県内に限られている中小事業所の排出枠の取引を両地域のあいだでも認める。取引範囲を広げることと市場を活性化し、他の地域にもCO2削減の取り組みを広げる考え。東京都と埼玉県の削減義務の対象は大規模なオフィスビルや工場などで中小事業所は含まれていない。都県の境を越えた排出枠の取引は中小企業の制度への参加を促す狙いもある。具体的な制度や運営についての詳細は今後、検討する。 「日本経済新聞」

📌 宮本一言メモ **自治体に実力差がある。どこまで広げられるか？**

●京都市が中小企業向けに省エネアドバイザーを派遣。

NPO法人KES環境機構の協力を得て、経費削減や省エネの問題を抱える中小企業に派遣し、きめ細かくアドバイスする。事業所のごとにコストがかかっているか分かるようにするため、エネルギー使用量の管理の仕方からアドバイスする。設備改修を考えている中小には、無料省エネ診断や補助・融資制度などを紹介する。 「日刊工業新聞」

📌 宮本一言メモ **制度自体のPRがキー。**

ToPic 展示会情報

●すまい・建築・都市の環境展「ecobuild(エコビルド)2010」 <http://www.nikkan.co.jp/eve/ecobuild/>

持続可能な循環型社会実現のための「地球環境・建築憲章」をコンセプトにする展示会

併設:2010 土壌・地下水環境展

開催日 : 2010年10月13日(水)~15日(金)

場所 : 東京ビッグサイト

料金 : 1,000円 招待券持参者、事前登録者は無料

主催者 : エコビルド実行委員会/(財)建築環境・省エネルギー機構/日刊工業新聞社

連絡先 : 日刊工業新聞社 イベント事業部「ecobuild 2010」事務局 Tel :03-5644-7221

●びわ湖環境ビジネスメッセ2010 <http://www.biwako-messe.com/>

「環境と経済の両立」を基本理念に持続可能な経済社会を目指し、環境産業の育成振興を図るため、環境負荷を低減する製品・技術・サービス等を対象とした商談・取引と情報発信・交流の場

開催日 : 2010年10月20日(水)~10月22日(金)

場所 : 滋賀県立長浜ドーム

料金 : 無料

主催 : 滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会

連絡先 : 滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会事務局 Tel.077-528-3793

後記 昼休みの活用法

「ココ調」

気分をリフレッシュする上でも昼休みは大事です。しかし、昼休みは1時間。この限られた昼休みをどのように過ごしているのでしょうか？

昼食の済ませ方は、お弁当持参、買うという人は60%、飲食店に行く外食派は40%。お弁当派は「早く食べ、昼休みを有効活用」などといった理由。

昼食後の活用は、昼食の時間を削って、マッサージをする。買い物をする、昼寝をするなど。1時間の昼休みが短いと感じている人は、100人中73%

📌 宮本一言メモ **省エネセンターは50分。食事もゆっくりできません。寝る場所もありません。**

